

「話すこと」CAN-DOリスト【教員用】

| 「話すこと」の 学習到達目標 | | 発信力 | 対話力 | |
|-------------------|---------------------------------|---|---|---|
| | | 学んだことや経験したことについて、 情報や自らの考えを英語で意欲的 に話し、相手に適切に伝えることが できる。 | 与えられた課題に対し、なかまと英語 で積極的にやりとりし、互いに協力し ながら解決に向けて議論を深めるこ とができる。 | |
| | | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 |
| 音声活動 | (A) 音素・単語の発音 | 発音ガイドを見ながら、 個々の音素について発音す ることができる。 | 発音記号をほぼ理解し、発 音記号を見て個々の単語を 発音することができる。 | 発音記号を理解し、発話の 際にも、個々の単語を正し くはっきりと発音すること ができる。 |
| | (B) リズム・イントネーション 等を付けての発話 | 発話の際、文強勢やイント ネーションに注意して話す ことができる。 | 発話の際、英語のリズムや 音の変化に注意して話すこ とができる。 | 発話の際、適切な速さと音 量を保ちながら、自然な音 調で話すことができる。 |
| 対話型活動 | (C) 教員・ALT との対話 | 教員・ALTの発問に対して、 語句レベル（単語・フレー ズ）で情報や考えを伝える ことができる。 | 教員・ALTの発問に対して、 文レベル（主に単文）で情報 や考えを伝えることができ る。 | 教員・ALTの発問に対して、 重文・複文も交えて情報や 考えを伝え、ある程度の対 話を続けることができる。 |
| | (D) ペアでの対話 | 学んだ内容について、教科 書の例文や語句リストを使 いながら、ペアの相手と ロールプレイ形式で対話す ることができる。 | 学んだ内容や身近な話題に ついて、メモ等を使いなが ら、ペアの相手と「A→B →A」形式で情報や考えを伝 え合うことができる。 | 学んだ内容や社会的な課題 について、自分の言葉でペ アの相手と情報を交換した り賛成・反対などの意見を 述べ合うことができる。 |
| | (E) グループでの 話し合い | 学んだ内容について、教科 書の英文や語句リストを見 ながら、何とか話し合いに 参加することができる。 | 学んだ内容や身近な話題に ついて、メモ等を使いなが ら、グループの中で情報や 考えを述べ合うことができ る。 | 学んだ内容や社会的な課題 について、自分の言葉で自 らの主張を述べ、グループ の中で質問したり、質問に 答えたりして議論を深める ことができる。 |
| 発信型活動 | (F) 口頭要約 | 英文の内容について、教科 書や穴埋め原稿を使いなが ら、口頭で要約を述べるこ とができる。 | 英文の内容について、キー ワードが入ったチャートや マップを使いながら、口頭 で要約を述べることができ る。 | 英文の内容について、自分 の表現を多く用いて、口頭 で要約を述べるとともに、 意見や感想を付け加えるこ とができる。 |
| | (G) 即興発表 | 学んだトピックや経験した ことについて、与えられた 語句や表現を使いながら、 即興で短い発表を行うこ とができる。 | 学んだトピックや身近な話 題について、使える語句や 表現をつなげて、即興であ る程度の長さの発表を行う ことができる。 | 学んだトピックや社会的な 課題について、様々な語句 や表現を使いながら、即興 である程度の長さの発表を 行い、質問にも応答できる。 |
| | (H) Show & Tell プレゼンテーション | 与えられたトピックについ て、絵や写真などを提示し ながら、英文原稿を使って 説明することができる。 | 学んだトピックや身近な話 題について、メモ等を使い ながら、賛成・反対の理由 や代替案をあげてわかりや すく説明することができる。 また、質問にも何とか対応 できる。 | 学んだトピックや社会的な 課題について、視覚的資料 等を使いながら、論拠を明 確にして相手を説得するよ うに説明することができる。 また、質問にも相手が理解 できるように答えることが できる。 |

「話すこと」CAN-DOリスト【生徒用】

「話すこと」CAN-DOリスト



| | | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 | 達成度 | | |
|-------|---------------------------------|---|---|---|-----|----|----|
| | | | | | 1年 | 2年 | 3年 |
| 音声活動 | (A) 音素・単語の発音 | 発音ガイドを見ながら、個々の音素について発音することができる。 | 発音記号をほぼ理解し、発音記号を見て個々の単語を発音することができる。 | 発音記号を理解し、発話の際にも、個々の単語を正しくはっきりと発音することができる。 | | | |
| | (B) リズム・イントネーション等を付けての発話 | 発話の際、文強勢やイントネーションに注意して話することができる。 | 発話の際、英語のリズムや音の変化に注意して話することができる。 | 発話の際、適切な速さと音量を保ちながら、自然な音調で話することができる。 | | | |
| 対話型活動 | (C) 教員・ALTとの対話 | 教員・ALTの発問に対して、語句レベル(単語・フレーズ)で情報や考えを伝えることができる。 | 教員・ALTの発問に対して、文レベル(主に単文)で情報や考えを伝えることができる。 | 教員・ALTの発問に対して、重文・複文も交えて情報や考えを伝え、ある程度の対話を続けることができる。 | | | |
| | (D) ペアでの対話 | 学んだ内容について、教科書の例文や語句リストを使いながら、ペアの相手とロールプレイ形式で対話することができる。 | 学んだ内容や身近な話題について、メモ等を使いながら、ペアの相手と「A→B →A」形式で情報や考えを伝え合うことができる。 | 学んだ内容や社会的な課題について、自分の言葉でペアの相手と情報を交換したり賛成・反対などの意見を述べ合うことができる。 | | | |
| | (E) グループでの話し合い | 学んだ内容について、教科書の英文や語句リストを見ながら、何とか話し合いに参加することができる。 | 学んだ内容や身近な話題について、メモ等を使いながら、グループの中で情報や考えを述べ合うことができる。 | 学んだ内容や社会的な課題について、自分の言葉で自らの主張を述べ、グループの中で質問したり、質問に答えたりして議論を深めることができる。 | | | |
| 発信型活動 | (F) 口頭要約 | 英文の内容について、教科書や穴埋め原稿を使いながら、口頭で要約を述べるができる。 | 英文の内容について、キーワードが入ったチャートやマップを使いながら、口頭で要約を述べるができる。 | 英文の内容について、自分の表現を多く用いて、口頭で要約を述べるとともに、意見や感想を付け加えることができる。 | | | |
| | (G) 即興発表 | 学んだトピックや経験したことについて、与えられた語句や表現を使いながら、即興で短い発表を行うことができる。 | 学んだトピックや身近な話題について、使える語句や表現をつなげて、即興である程度の長さの発表を行うことができる。 | 学んだトピックや社会的な課題について、様々な語句や表現を使いながら、即興である程度の長さの発表を行い、質問にも応答できる。 | | | |
| | (H) Show & Tell プレゼンテーション | 与えられたトピックについて、絵や写真などを提示しながら、英文原稿を使って説明することができる。 | 学んだトピックや身近な話題について、メモ等を使いながら、賛成・反対の理由や代替案をあげてわかりやすく説明することができる。また、質問にも何とか対応できる。 | 学んだトピックや社会的な課題について、視覚的資料等を使いながら、論拠を明確にして相手を説得するように説明することができる。また、質問にも相手が理解できるように答えることができる。 | | | |

「話すこと」の学年別学習指導計画 及びパフォーマンス・テスト(例)

| 活動 | 1年 | 2年 | 3年 |
|------------------------------|---------------------------------------|--|------------------------------------|
| (A) 音素・単語の発音 | ステップ1 ステップ2 ステップ3 | ※継続指導 | |
| (B) リズム・イントネーション等を付けての発話 | ステップ1 ステップ2 | ステップ3 | ※継続指導 |
| (C) 教員・ALTとの対話 | ステップ1 ステップ2 | ステップ3 | ※継続指導 |
| (D) ペアでの対話 | ステップ1 ステップ2 | ステップ3 | ※継続指導 |
| (E) グループでの話し合い | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 |
| (F) 口頭要約 | ステップ1 ステップ2 | ステップ3 | ※継続指導 |
| (G) 即興発表 | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 |
| (H) Show & Tell プレゼンテーション | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 |
| パフォーマンス・テスト | ○インタビュー ○口頭要約 ○Show & Tell 等 | ○ペアで対話 ○即興発表 ○プレゼンテーション (グループ) 等 | ○グループ討論 ○プレゼンテーション (個人) 等 |

【作成及び指導上の留意点】

1. (A)、(B) の音声指導については、「話すこと」の基礎となる活動であることを踏まえ、早い段階でステップ3まで到達できるように計画した。
2. 上記では、ステップ1がすべて1年から始めているが、各ステップの開始時期については、生徒の実態及び学習指導計画に合わせて柔軟に計画する。
3. 生徒の日ごろの取組の総まとめとしてパフォーマンス・テストを各学期に実施し、「話すこと」に対する教員評価を行う。

「話すこと」の学期別学習指導計画 及びパフォーマンス・テスト【1年】(例)

| 活動 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|------------------------------|--------|-------|-------------|
| (A) 音素・単語の発音 | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 |
| (B) リズム・イントネーション等を付けての発話 | ステップ1 | ステップ2 | |
| (C) 教員・ALTとの対話 | ステップ1 | ステップ2 | |
| (D) ペアでの対話 | ステップ1 | ステップ2 | |
| (E) グループでの話合い | ステップ1 | | |
| (F) 口頭要約 | ステップ1 | ステップ2 | |
| (G) 即興発表 | ステップ1 | | |
| (H) Show & Tell プレゼンテーション | ステップ1 | | |
| パフォーマンス・テスト | インタビュー | 口頭要約 | Show & Tell |

【指導上の留意点】

1. 各ステップの学習期間内（例えば、活動（A）のステップ1は1学期末まで）に、一人でも多くの生徒がターゲットとなるステップの達成段階に到達できるように、繰り返し活動に取り組む。
2. パフォーマンス・テストの内容は、学期内に取り組んだ活動のステップを反映したものとす。
3. パフォーマンス・テストは、ALTとともに行うのが望ましい。

「話すこと」の単元別学習指導計画【1年:Lesson1】(例)

○教科書:『Power On Communication English I』(東京書籍)

○単元名: Lesson 1 Greetings around the World

○学習のねらい: 真の国際交流のための世界のあいさつについて学ぶ。

また、国や文化によって様々なあいさつのジェスチャーがあることを理解する。

| 活動 | CAN-DO ステップ | 具体的な活動例 | 教科書 | | 評価 方法 | |
|------------------------------|----------------|--|-----------|-----------------|----------|------------|
| | | | 利用 ページ | 内 容 | | |
| (A)音素・単語の発音 | A-1 | 発音記号を見て、長母音と短母音を区別して発音する。 | 2ページ | 発音記号ガイド | 自己評価 | |
| | | | 18ページ | ミニマルペア | | |
| (B)リズム・イントネーション等を付けての発話 | B-1 | 強勢に注意して英文を読む。 | 16ページ | 本文 | | |
| | | | 18ページ | 音声練習 | | |
| (C)教員・ALTとの対話 | C-1 | オーラル・イントロダクションの内容について教員・ALTの発問に答える。 | 11ページ | 単元冒頭の 写真 | | 教員自己 評価 |
| (D)ペアでの対話 | D-1 | モデル対話を使って、ロールプレイを行う。 | 15ページ | 文法整序問題 (対話文) | | 相互 評価 |
| (E)グループでの話し合い | E-1 | 海外であいさつをする際に大切なことについて考えを述べ合う。 | 単元全体 | | | |
| (F)口頭要約 | F-1 | ペアになり、穴埋め要約文を使い、相手とアイコンタクトをしながら要約を述べる。 | 18ページ | 要約文 | | |
| (G)即興発表 | G-1 | ペアになり、学んだトピックについて即興で1分間(語数を数える)の発表を行う。 | 単元全体 | | | |
| (H) Show & Tell プレゼンテーション | H-1 | ペアになり、学んだトピックについて1分間のShow & Tellを行う。 | 単元全体 | | | |

【作成及び指導上の留意点】

1. 上記では、参考として、(A)から(H)のすべての活動について達成度チェックを行うための具体的な活動例を提示したが、実際には、生徒の習熟状況及び学習指導計画に合わせて、各単元ごとに達成度チェックを行う活動の絞り込みを行う。
2. 教科書の利用ページを付けた。新課程用教科書には、随所に「話すこと」に焦点を当てたコミュニケーション活動が含まれているので、それらを有効に活用することによってコミュニケーション活動用のワークシート等を作成する手間を省き、指導と評価の充実を図る。

CAN-DO達成度チェックシート



| CAN-DO ステップ | △ (もう少し) | ○ (達成) | ◎ (Super!) | 達成度をチェックしよう! | | | |
|----------------|--|---|--|--------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | | ／ | ／ | ／ | ／ |
| A-1 | 発音ガイドを見ながらであれば区別して発音することができる。 | 発音ガイドを時々見ることもあるが、ほぼ発音記号だけで区別して発音することができる。 | 発音ガイドを見ずに、発音記号だけで全て区別して発音することができる。 | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ |
| B-1 | ゆっくりであるが、強勢マークを見ながら、ほぼ適切に強弱を付けて読むことができる。 | 強勢マークを見ながら、適切なスピードで強弱を付けて読むことができる。 | 強勢マークを見ずに、適切な声量・スピードで強弱を付けて読むことができる。 | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ |
| C-1 | 教員・ALTの発問に対し、教科書等を見ながらであれば答えることができる。 | 教員・ALTの発問に対し、教科書等を時々見るが、先生の顔を見て答えることができる。 | 教員・ALTの発問に対し、即座に先生の顔を見て答えることができる。 | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ |
| D-1 | 教科書等を見ながらであれば、対話することができる。 | 教科書等を時々見るが、アイコンタクトを入れながら対話することができる。 | 教科書等をほとんど見ることなく、アイコンタクトを入れながら適切なスピードで対話することができる。 | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ |
| E-1 | 教科書等を見ながらであれば、必要な情報を話すことができる。 | 教科書等を時々見るが、アイコンタクトを入れながら、自分の考えを話すことができる。 | 教科書等をほとんど見ることなく、自分なりの表現を使って、アイコンタクトを入れながら、考えを話すことができる。 | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ |
| F-1 | 穴埋め原稿の空所を埋めながら、要約文を読むことができる。 | 穴埋め要約文を時々見ながら、口頭で要約を述べることができる。 | 穴埋め要約文をほとんど見ることなく、口頭で要約を述べることができる。 | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ |
| G-1 | 即興で、1分間に30語程度の英文を話すことができる。 | 即興で、1分間に40語程度の英文を話すことができる。 | 即興で、1分間に50語程度の英文を話すことができる。 | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ |
| H-1 | 絵や写真などの資料を使いながら、英文原稿を読むことができる。 | 英文原稿を時々見ながら、絵や写真などの資料を使って話すことができる。 | 英文原稿をほとんど見ることなく、絵や写真などの資料を使って話すことができる。 | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ | ◎ ○ △ |

【作成及び指導上の留意点】

1. 上記では、参考として、(A) から (H) の全活動のステップ1について達成度チェックを行うための評価基準例を提示したが、実際の授業においては、この半数程度の活動に絞ったチェックシートを作成する。
2. 評価基準を「◎、○、△」の3段階に分け、「○」の内容ができるようになると到達段階に達したと判定する。「◎」を設定することにより到達の早い生徒の学習意欲を保ち、「△」についても「できないリスト」にならないように表現を工夫した。
3. コミュニケーション活動の際、生徒はチェックシートの「◎、○、△」の欄に自分自身で、あるいはクラスメイトがチェックマークを付けて達成度を記録する。
4. 授業後、生徒はチェックシートをフラットファイル等に綴り、ポートフォリオ化して「話すこと」に関する学習成果を残す。
5. 「到達度チェックシート」の作成に当たっては、担当教員全員で分担する。

パフォーマンス・テスト評価基準(例)

A:十分に満足、B:おおむね満足、C:努力を要する

| 項目1 | 意 欲 | | |
|------|---|--|--|
| 評価基準 | A | B | C |
| | ○積極的に発話し、スムーズにコミュニケーションを継続させている。 | ○発話の際に詰まることもあるが、コミュニケーションを継続させようとしている。 | ○不自然な沈黙が多く、コミュニケーションを継続させようとする意欲が低い。 |
| 項目2 | 内 容 | | |
| 評価基準 | A | B | C |
| | ○意味がよく伝わり、深まりのある内容である。 ○質問に対応した正しい内容である。 | ○意味がほぼ伝わる内容である。 ○質問にほぼ対応した内容である。 | ○意味がほとんど伝わらない内容である。 ○質問にほとんど関係のない内容である。 |
| 項目3 | 表 現 | | |
| 評価基準 | A | B | C |
| | ○アイコンタクトやジェスチャーを効果的に使い、聞き手を惹きつける話し方である。 | ○アイコンタクトやジェスチャーを適度に交えて話している。 | ○アイコンタクトやジェスチャーがなく、下を向いて話すことが多い。 |
| 項目4 | 語彙・文法 | | |
| 評価基準 | A | B | C |
| | ○話す英語の語彙、文法・語法に不適切な部分がほとんどない。 | ○話す英語の語彙、文法・語法に不適切な部分が時々含まれる。 | ○話す英語の語彙、文法・語法に不適切な部分が多々ある。 |

作成及び指導上の留意点】

1. 評価項目については、生徒にとってパフォーマンス・テストが日頃の活動の成果を発揮できる場となるとともに、生徒の自己評価や相互評価では取り扱いにくい領域に関して評価できるように、「意欲」、「内容」、「表現」、「語彙・文法」の4項目を設定した。
2. 評価基準の記述文については、様々なパフォーマンス・テストで活用できるように汎用性のある表現を用いた。
3. パフォーマンス・テストの結果は、観点別学習状況の評価のための評価資料として活用し、学期末・学年末の評価・評定に生かす。

パフォーマンス・テスト個票(例)

()年()組()番 氏名()

| 学期 | テスト内容 | 評 価 | | | |
|----------------------------------|---|-----------------------------|------------------------|----|-------|
| | | 意欲 | 内容 | 表現 | 語彙・文法 |
| 1学期 | インタビュー | | | | |
| 2学期 | 口頭要約 | | | | |
| 3学期 | Show&Tell | | | | |
| アドバイス | 1学期 | | | | |
| | 2学期 | | | | |
| | 3学期 | | | | |
| 評 価 の 観 点 | | | | | |
| 意 欲 | 内 容 | 表 現 | 語 彙 ・ 文 法 | | |
| ○積極的に発話し、コミュニケーションを持続させようとしているか。 | ○意味が伝わり、深まりのある内容であるか。 ○質問に対応した正しい内容であるか。 | ○アイコンタクトやジェスチャーを効果的に使っているか。 | ○話す英語の語彙、文法・語法に誤りがないか。 | | |

【作成及び指導上の留意点】

1. 生徒には、評価結果を記した個票を渡す。その際、ALTと協力して改善に向けたアドバイス等を記入することにより生徒の意欲向上を図る。
2. 個票については、ワープロソフトの差し込み印刷機能等を用いて作成し、各学期の評価とアドバイスが記入されたものを学期ごとに渡す。
3. 生徒は個票をフラットファイル等に保管し、ポートフォリオ化する。